

## 平成 29 年度 第 2 回太田市公共事業入札等監視委員会 委員コメント

### 小川委員長

今回審議の対象とした期間では、市役所庁舎の外壁改修や下水道管渠の維持メンテナンスなど、既存施設の維持修繕の案件を議論の対象として、担当課にもご説明いただきました。

人口縮小の社会構造の中で、既存施設のいわゆるストックマネジメントの観点からは、限られた税収入の中で運営する市政にとって今後ますます重要になってくると思います。

工事手法の選択、業者の選定、育成等、総合的な視点から実効性のある入札を実施していただきたいと思います。

### 田島副委員長

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 2 月 28 日までの入札契約状況は、落札金額ベースでは前年比 68.53%でした。今年度は前年のような太田市運動公園野球場建設工事等の大型案件はありませんでした。

今回審議の対象となった下水道管渠更生工事については、今後の太田市の社会インフラの維持管理を、限られた予算の範囲で効率よく実行していくことが重要な課題となってきています。

その意味で、インフラの長寿命化を目的とした今年度の長寿命化事業下水道管渠更生工事の取り組みは、時代の要請に適合したものと考えます。

今後は、このような案件が多くなることが予想されることから、多くの地元業者が必要な資格等を得し管渠更生工事に参加できるよう、技術水準の向上が図れるような取り組みを期待しています。

### 下山委員

『公共工事』と聞くと、金額がとても大きなイメージで、発注される案件はきっと大きな企業が請け負うだろうから、小規模な業者はなかなか入札にも参加しづらいのではないかと感じていました。

しかしながら、今回の案件の中には低い金額のものもあり、太田市の『公平性』への取り組みが見られました。ただやはり、入札の条件や、参加の仕方が複雑で小規模な業者ではなかなか決まらず、結局のところ大きな企業が請け負う形になってしまったという事例が報告されましたが、このような結果は痛し痒しといったところでしょうか……。

今後は、素敵な太田市づくりに貢献できるよう、この入札制度が広く浸透し、会社の規模を問わず色々な入札参加者の方の特色を生かせる公共工事になったらいいな……と思います。